

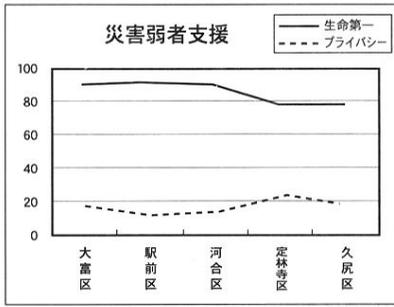
防災アンケートから

自治だより編集部

今回実施しました泉町民の防災意識調査にご協力いただいた皆様誠にありがとうございました。アンケートの結果を自治だより編集部で分析した結果についてお知らせします。町民の皆さんには是非読んでいただきたいので、お年寄りにも読みやすいように、特別に大きい文字で紙面構成をしてみました。

一、災害弱者支援について

災害弱者支援では、グラフが示しているように生命第一が圧倒的に多い答えでした。



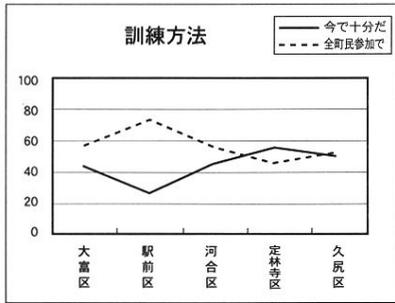
これは、最近大きな地震が頻発している事に因るのではないかと考えられます。新潟・中越地震、石川・能登沖地震、中国四川省地震、そして岩手・宮城内陸地震と続き、その被害の大きさと多数の犠牲者が出た事等心痛むニュースに接し、加えて、政府機関の地震調査研究推進本部は、今後三十年間に震度六弱の東海・東南海地震が起きる確率は八七パーセントと発表しました。この地震予知のコメントを聞けば、明日はわが身かも知れないと危機感を抱く方が増えていることは当然の事と言えそうです。ここで見落としてはならない事は、プライバシー保護を求めている方も居ると言う事です。

地震災害は何時起きるかは分かりません。今から町内会の役員、隣保班の方々が普段から声を掛け、心配りをし、いざと言う時スムーズな活動が出来るようにしておくことが何より大切であると言う事を示していると考えております。これを機に災害弱者支援の輪が広がる事を期待しております。

二、訓練方法について

防災訓練に全町をあげて参加する必要がありと考える人が多数を占めた事は素晴らしい結果であったと思います。

防災訓練にも様々な形態があります。これまでは学校、公園の広場を会場として、初期消火や救急処置を中心とした「集合型防災訓練」が中心でした。しかし「いざ」と言う時は様々な事態が発生します。そんな時対処の方法が分っていれば無用な混乱も起きず、パニックに陥ることも無いのです。



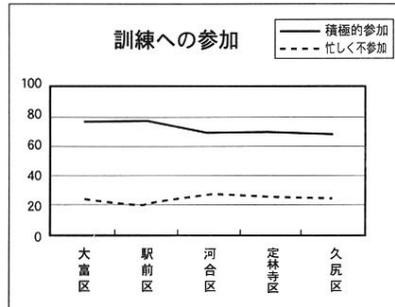
土岐市消防防災センターでは、自分の家を一歩外に出たら、そこが防災訓練会場となる「防災対応型防災訓練」を考案し、この防災訓練を全町の市に広め、災害が発生した時に、全市民が落ち着いて身の安全を図り、隣近所の安全を確認して避難場所目指して移動出来る様にしようとする研究を重ねて、区や町の求めに応じてこの防災訓練を実施する準備を整えております。この防災対応型防災訓練について概略を説明します。次回の防

災訓練に役立てて頂きたいと考えております。

災害が発生すると、避難場所までの間は、火災が発生して通行が危険な場所もあります。倒壊家屋の下敷きになって救助を待っている人もいます。怪我をしていない人もいます。橋が崩落して通行が出来ない場所もあります。その一つ一つの確かな状況判断をする力を培う事は、身の安全確保のためには欠かす事の出来ないのです。この様に起こり得る様々な状況を想定した実践的訓練へ移行する事がとても大切であると編集部では強く考えております。

三、防災訓練への参加

防災訓練は全町民参加でやりましょう。私は防災訓練に積極的に参加をしますと意思表示をされた町民が多い事は素晴らしい事です。

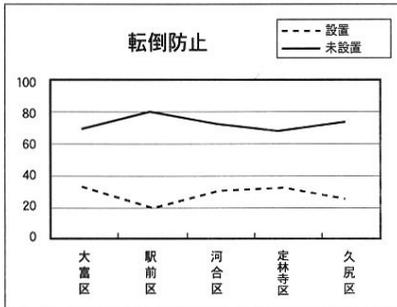


積極的に参加をしてくださる方々の強い意欲や意思も、防災訓練のやり方によつては衰えていくかもしれないのです。従来の「集合型防災訓練」では、同じ訓練内容の繰り返しで、マンネリ化や参加者の固定化等に繋がるおそれがあるばかりではなく、回を重ねる毎に参加者が減って行く事も予想されます。こういった状況を変えていくには前述の「防災対応型防災訓練」が有効だと考えます。この方法だと、何が起るか分からない緊張感と、救助、救急と言う使命と即座に判断をしなくてはな

らないと言う緊迫感が混在しており、参加者を飽きさせない事は有りません。土岐市内のある町で防災対応型防災訓練を実施した後のアンケートでは、八五パーセント以上の人が次回も防災対応型防災訓練を希望していると言う結果が出ています。この機会に区、町内会の役員や有志が土岐市消防防災センターで「防災対応型防災訓練」について学習する機会を設定し、実践的な防災訓練を積み重ね、町民自身が安全・安心を守る習慣と力をつける機会としたいと願っております。

四、転倒防止装置の設置

過去の地震による被害では、家具等の転倒によって下敷きとなつて被災した人数はかなりの数に上ると言う事が分かっています。転倒防止装置が未設置の世帯が多いことは大変心配な事です。



地震と言う自然の力に立ち向かう事は出来ませんが、普段の注意と工夫で被害を減らす事は出来るのです。家具の転倒防止、掛け時計、額の落下防止、棚の上の置物の移動等によって被害を減らす様にします。とりわけ大切な事は、寝室には背の高い家具類を置かない事です。このように身の回りから「あぶない物」を遠ざけたります事で「減災」は可能になるのです。

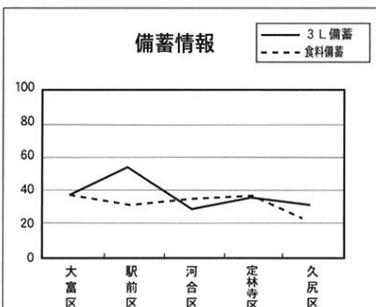
転倒防止装置の設置についてはどこでも良いと言うことでは有り

ません。しっかりとした下地がある場所に固定をする事が大事です。しっかりとした下地は、部屋の角から九センチ毎に柱が有り、ここを利用すれば良いわけです。

転倒防止装置の設置について指導して下さる方、災害弱者への手助けは専門ボランティア活動で出来ないものでしょうか。手助けや指導をしても良いと言う方の取りまとめが出来ないものでしょうか。ご意見を寄せ下さい。

五、飲料水・食料の備蓄

大きな災害が起きると、まず第一に報じられるのは、生活水の確保に関する事です。最近自治体間で協力する協定が各地で結ばれておりますが、それだけでは足りず、自衛隊やボランティア団体の支援でようやくと言う状態です。これより道路事情が確保された中心部で充足するのですが、周辺部では大丈夫とはいえない場合も有るので



土岐市が泉地区の防災倉庫に備蓄している飲料水は、356リットル、食料の備蓄はアルファ米、サバイバルフーズ合せて6,000食です。この量は災害弱者のための備蓄であり、私たちは自らが飲料水一人一日三リットル三日分を備蓄する必要があります。私たちが健康者は食べ物と一日や二日口にしないでも体調を崩すことは有りません。しかし、水分の摂取が出来ないと、健康に重大な影響が及ぶ恐れがあると言われています。

上のグラフが示している様に飲料水を備蓄している世帯は、泉の全世帯の四割程度ですが、備蓄世帯数は他市町村の備蓄世帯数と比較すると高い数値な事です。

現在土岐市が各家庭の飲料水の備蓄をバックアップするために、泉町用と泉中学校の防災倉庫に三台、文化会館の防災倉庫に一台、定林寺拠点に一台計五台の浄水装置を設置しております。この浄水装置は一時間に二リットルの水を浄化する能力が有りますが、一時間風呂桶一杯を満たす量の水しか出来ません。水道の蛇口から出る水の量とは大違いで、チヨロチヨロとした水の出方なのです。蛇口からこのような水の出方です。から、泉七千五百世帯の内六割に当たる四千五百世帯、人数約一万人の人が水を備蓄していない人が飲料水を求めるのですから、各地で長蛇の列が出来、混乱が予想されます。飲料水は各自が備蓄する事が何より大切な事です。

飲料水の備蓄は高価な防災用飲料水でなくても良いのではないのでしょうか。ポリタンクに毎日飲料水を汲み置きして、翌日には風呂や洗剤に使うと言う方法です。面倒なものと思わないで、毎日水を汲み替える事が、防災意識の持続につながって行けると考えてみてはどうでしょうか。「災害は忘れた頃にやってくる」と言います。家族で、ご近所で声掛け合せて「安全・安心街づくり」を防災の面から一人一人が実践をしましょう。

追記
震度予測分布は土岐市HP→暮らしの窓口→防災→地震について
(2)→関連資料(東海・東南海地震について)を開いて見て下さい。
パソコンの無い方は、各町内会長さんも震度予測分布図をお持ちですで見せてもらい「減災」について各自で出来る事を再点検して下さい。